

# 畠田・寺中遺跡ほか2遺跡（畠田西遺跡群）の 古代「方形溝」について

浜崎 悟司

ここに紹介するのは当センターが平成13年度に実施した標記遺跡T区の発掘調査で見つかった溝状遺構SD31とSD34である。両溝はともに8世紀後半に埋没したとみられるもので一連の溝—「方形溝」—として既に報告されている（文献1）。この遺構は「方形溝」とはいうものの、実際には南辺に溝が検出されていないため、「コ」字状プランを呈している。弥生時代～古墳時代の集落遺跡においてこの種の「方形溝」が検出された場合、大壁づくりの平地式建物と考える場合が多いと思う。弥生時代～古墳時代の当地において、こうした「壁立式平地住居」（文献3）はかなり一般的に存在する。しかしこの「方形溝」がつくられた8世紀後半まで降る例は乏しいのではないかだろうか。少なくとも畠田・寺中遺跡の古代の遺構としては「方形溝」はほぼ単独例であろう。加えて、南辺に溝が廻らない状態であること、報告書でこの遺構を「建物」として記述することを躊躇させたのではないかと思う。

この遺構の性格については、報告書の刊行後に精細な検討をこの遺跡に加えた文献2においてすら取上げるところとはならず、特に検討されることもなく今日に至っているのではないかと思う。最近になって私はこの遺構の理解に際して参考になるかもしれないと思える資料に気づいたので紹介してみたい。

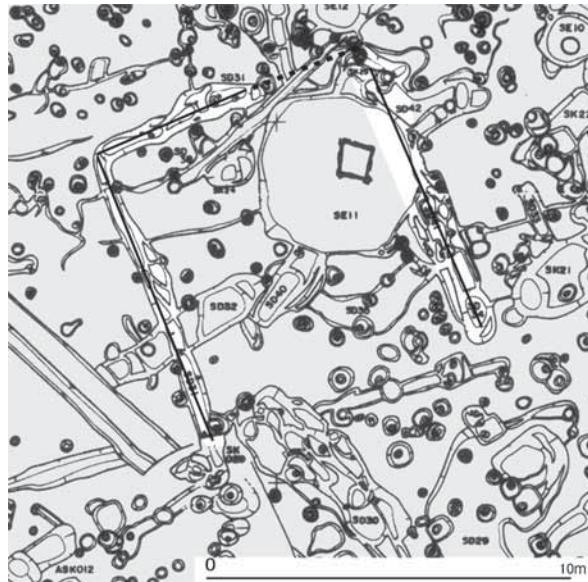


図1 畠田・寺中遺跡の「方形溝」



図2 古代の「仏堂」（文献4による）

図2は文献4の表紙を飾るイラストで、『粉河寺縁起』の前半部分に繰り返し描かれている同寺創建時の堂の姿に基づくものである。描画年代が降る『縁起』の堂が創建時の実際の姿をどれほど忠実に表したものかを判断する能力は私には無い。ただ図2についての事務局コメント（同書174頁左段中程）は、これに類した建築遺構の西日本の古代集落内における存否の解明に期待を寄せているもののように受け取れる。つまり、図2の下部構造に類似した遺構が古代集落内に存在するのであれば、

それを積極的に「仏堂」として認定していこうとする動きが日本考古学界(少なくともその主要な一部)にはあるということだろうと思う。

自分が勝手に感じ取っただけのことかもしれない「動き」に「迎合」する訳では決してないが、図1「方形溝」と図2の堂壁基底部に想定される遺構との類似については、明らかだと私には感じられる。「方形溝」遺構は一辺を大壁構造に作らない平地式建物と考えられよう。

ところで『縁起』の粉河寺は和歌山県(旧紀伊国)に所在するが、紀伊と加賀とは間に都—平城京・長岡京・平安京一を挟んだ正反対の方角に位置している。このことから、たとえ『縁起』の堂が8世紀後半の彼の地の堂を忠実に表現していると認めるにしても、大勢として紀伊と加賀の資料には余り接点が無いはず、つまりこの遺構も偶然似ているようにみえるだけだろうと考える向きがあるかもしれない。しかしながら、1回限りの貫入的な「方形溝」の導入といったことが仮に事の実態であったとすれば、畠田・寺中遺跡についてはその間の事情を伝える文献史料が既に知られているように思えるのである。

考古資料の検討が我々の本務とはいえ、出土文字資料は古代の遺跡を考える上で魅力に富む。特に畠田・寺中遺跡の場合、歴史史料としても評価が高い『日本靈異記』所収の一説話(下巻第16縁)の舞台でもある。俄か勉強ながら私も文献5などにより知識を得て、この「方形溝」に関連して以下のように考えてみた。

- ① 8世紀後半のこの「方形溝」は形状や方位指向性から建物遺構の可能性がある。
- ② 建物遺構とすれば「壁立式平地住居」の類であろう。
- ③ ②の古代例は希少とみられる。また「方形溝」の特徴は「コ」字状のプランに求められる。
- ④ ③が発見された畠田・寺中遺跡は『日本靈異記』下16縁所載の畠田村の一部であった。
- ⑤ 『日本靈異記』下16縁によれば、西暦770年頃に横江臣が当地で仏事を行った。
- ⑥ ⑤の仏事を差配したのは紀伊国名草郡出身の私度僧である寂林であった。
- ⑦ 寂林と『日本靈異記』の編者景戒とは、本貫地を近くする同業の同時代人であった。
- ⑧ 『粉河寺縁起』に描かれた同寺の創建堂は770年頃に「庵」として紀伊国那賀郡に建てられた。
- ⑨ ⑧の地下部分が発掘調査されたとすれば、②③と近い形状の遺構になると想定される。
- ⑩ ⑦の両者(特に寂林)の脳裡にあった「仏堂」のモデルは郷里(隣郡)のものであった。
- ⑪ ⑤に際して、「堂」的な施設が設けられた可能性がある。
- ⑫ ⑪の場合、⑩である⑥が④に③を造らせたことが考えられる。

急遽したため短文のため意を尽くせたか全く自信がないが、論点についてはおよそ提示できたと思う。何時か粗稿を改める機会が訪れることがあれば幸いである。「方形溝」遺構の理解、「紀伊コネクション」の存否といった点について、各方面から御意見をいただくことができれば、と思っている。

## 参考文献

- (1) (財)石川県埋蔵文化財センター 2005 『畠田西遺跡群V』
- (2) 出越茂和 2010 「北加賀の港湾関連遺跡と出土資料」(『資料学』研究会編『資料学の方法を探る(9)』)
- (3) 宮本長二郎 2005 「弥生時代の建築」(奈文研編『日本の考古学 上巻』)
- (4) 奈文研編 2006 『在地社会と仏教』
- (5) 吉田一彦 2006 『民衆の古代史』